

令和3年度野生鳥獣に関する感染症対策としての鳥獣保護管理方針検討会（第1回）
議事要旨

開催日時

令和3年12月20日（月） 14:00～16:30

開催形式

Web会議

委員（五十音順、敬称略。○は座長）：

岩丸 祥史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門動物感染症研究領域 ウイルスグループ グループ長補佐
五箇 公一	国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室室長
橋本 渉	公益社団法人日本動物園水族館協会 感染症対策部長
○羽山 伸一	日本獣医生命科学大学獣医学部 教授
前田 健	国立感染症研究所獣医科学部 部長

オブザーバー

農林水産省消費・安全局動物衛生課、厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

議事

- (1) 野生鳥獣に関する感染症としての鳥獣保護管理方針検討会の設置について
- (2) 野生鳥獣に関する感染症に係る国内外の取組状況について
- (3) スクリーニングとリスク評価について
- (4) その他

要旨

会議は非公開で行われた。

議事（1）野生鳥獣に関する感染症としての鳥獣保護管理方針検討会の設置について

委員より、人と自然の適切なかかわり方を通じて生態系を健全な状態にすることが、広い視野に立った感染症対策の根幹にあるとのワンヘルスの概念について、説明・指摘があった。
(五箇委員)

議事（2）野生鳥獣に関する感染症に係る国内外の取組状況について

委員より、海外の取組について、活動資金の財源に関する質問があったほか、今回の調査対象に含まれていない中国の取組についての情報共有が行われた。(岩丸委員、前田委員)

議事（３）スクリーニングとリスク評価について

委員より、以下の指摘等が行われた上で、環境省による感染症に関する取組の第一歩として、提案された手法により野生鳥獣への影響に着目した野生鳥獣に関する感染症のリスク評価を行うこと、モデル事業の中でリスク評価を踏まえた、野生鳥獣のリスク管理も試行していくこと等が了承された。

- ・環境省として生物多様性保全の観点から希少動物に対する感染症の影響を評価する場合、爬虫類や両生類といった鳥獣以外の分類群に注目したリスク評価を行うことも重要。（五箇委員）
- ・将来的な課題として、他の分類群についてのリスク評価も視野に感染症リスクの評価を充実・継続させることが重要。（羽山座長）
- ・国内の野生動物における感染症について論文化されている情報の少なさや偏りがリスク評価の結果に影響する可能性がある。（前田委員）
- ・リスク評価後の次のステップとしてリスク管理措置を議論することが重要。（五箇委員）
- ・検体の収集可能性や収集方法、検査機関の有無等から対応が難しい場合、モデル事業でどのように扱うのか。（岩丸委員）
- ・感染症の浸潤状況を把握しきれていない背景には、検査等にかかわる人材、資金面での立ち遅れもある。（橋本委員）

議事（４）その他

事務局より委員に対し、既存文献にはまだ出ていないが注意すべき野生鳥獣に関する感染症がある場合は、関連知見を提供いただけるよう依頼した。

以上